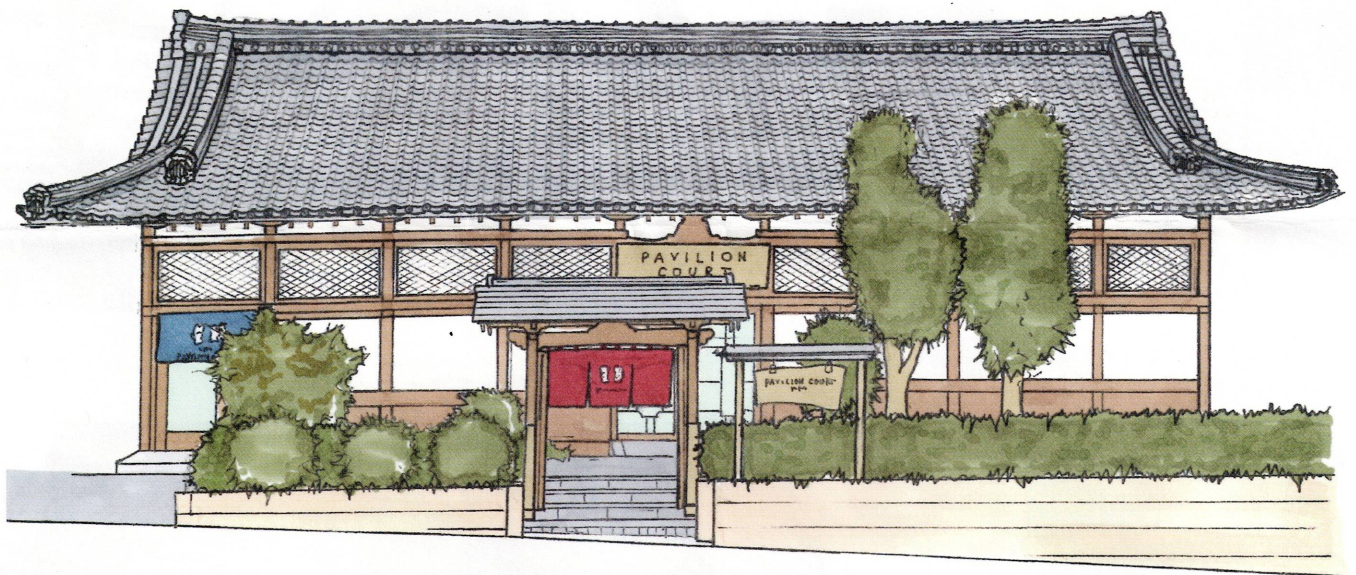


株式会社 京都山中商会
PAVILION COURT
KYOTO



建築概要

- ◆玄関門（登録有形文化財）木造門・鉄板葺
大正元年（1912年）／平成14年（2002年）移築

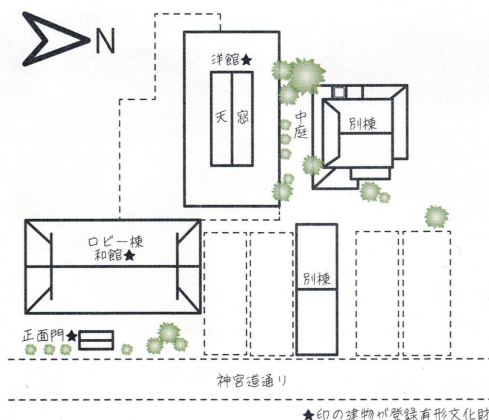
当主邸宅茶室の門として使用していたもの移築。

- ◆和館（登録有形文化財）木造瓦葺
明治37年（1904年）／昭和42年（1967年）移築

外観は業平格子や舟肘木をめぐらし、欄間彫刻（現在は移設）や幕股など寺院風の意匠を有する。同様の和館が光照院門跡に寄進されて改装後、本堂として使用されている。

- ◆洋館（登録有形文化財）鉄筋コンクリート造煉瓦壁
地下1階（半地下）地上2階建て
大正9年（1920年）
設計：池村元之助
施工：清水組（現：清水建設株式会社）

鉄筋コンクリート造の建物として京都最初期のものである。美術品陳列館として建築され、美術品の展示スペースであった1階と2階は吹き抜け階段でつながり、折り上げ格天井や円崩しの欄干手すりなど和風の装飾が美しい。2階は大きな天窗を有する。



明治

株式会社 京都山中商会パビリオンコートは、明治～戦前を中心に世界を舞台に活躍した古美術商・山中商会の京都支店であった。山中商会は、米国や英国に多くの支店を持ち、優秀な東洋美術品を輸出販売した世界最大級の古美術商であった。その中で京都支店は主に海外から日本を訪れた顧客に対して古美術を展示販売する目的で設立された。

山中商会は、アーネスト・フェノロサ（1853～1908）やウィリアム・ビザロー（1850～1926）といった日本美術に造詣の深い米国人との関係を活かし1894年にニューヨークで営業を開始して以来、米国、英国、中国において順調に支店を増やし事業を拡大していった。

大正

山中商会の海外事業の中心的な役割を果たしたニューヨーク支店は1917年にアップパー・ファイフ・アヴェニューと呼ばれる5番街の680番地（53丁目と54丁目の間）に移転した。店舗が入居したビルオーナーは東洋美術品の収集家でも知られる実業家のロウフェラーであった。またロンドン支店では、英国王室との取引があり、その証でもあるロイヤルワラントをイギリス国王ジョージ5世とメアリー王妃より賜る荣誉をあげた。

昭和

しかし、太平洋戦争の開戦後、米国にあった山中商会の資産は米国の管理下に置かれることになり、その後2年間をかけて競売にかけられ、すべてを失うことになった。

一方、山中商会京都支店は1916年に山中合名会社として独立し、太平洋戦争後も多くのコレクターが訪れ、米国内の美術館との取引も続いた。順調だった京都山中商会の事業も日本経済の高度成長に伴い美術品価格の高騰や円高、そして優秀な東洋美術品の枯渇により古美術品販売事業の縮小を余儀なくされた。

現在

現在は当時美術品の陳列館であった洋館を活かし、ノスタルジックな雰囲気の特長とした貸会場やカフェとしてご愛顧いただいている。また、山中商会が販売した多くの中国美術品の写真が貴重な資料として注目を集めている。

